

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人 吉誠会		
事業所名	認知症共同生活介護 グループホーム菜の花	ユニット名	2号館
所在地	都城市高城町穂満坊496-3		
自己評価作成日	令和4年6月10日	評価結果市町村受理日	令和4年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族に対しては、日々の生活の状況や近況報告を小まめに行い、広報を利用し毎月の出来事を発信することで写真を通じて様子が伺える様になっている。日中の生活の中より可能性を見極めながら自らの言葉として意欲ある言葉を発することができるように環境面を整え意欲維持につながるようになっている。アピールしたい点としては、医療法人系列の施設であることから健康面に関連した環境が整い緊急時の対応や急変に対する対応が整っていることで家族も安心されている点は大きい。又、「最後の時までホームで過ごさせたい」と希望する家族も多くなっている点では、同時に慣れ親しんだ環境という点や家族の信頼が得られたことによる評価に値する結果として受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で地域との交流、運営推進会議、家族の面会など実施出来なかった。このような状況で、市との連携では、コロナ感染について、対策や助言を頂き連携して取り組んでいる。運営推進会議では、構成員の方にアンケートを実施して意見を頂いている。利用者の尊厳や自立支援を大切にできるよう職員教育や環境作りなどへの配慮がされている。地域とのつながりはホーム単体ではなく法人全体として考えているため法人間の連携や支援体制が整っている点が強みと感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なのはな」と一文字を活かし忘れていく過程の中で、日頃の関わりから関係性を築くことでヒントとなる内容を探り、支援に活かせるように情報を共有している。		理念は、なのはなの文字を合わせて作った。(な)「懐かしい思い出話からヒントをもらい日々の生活に活かされるよう努めます。」では、利用者との世間話の中で得られたことをレク活動などで実践に取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症による行動制限から地域との交流は難しく実施できていない。		コロナ禍の前では、地域の高齢者クラブや地元の中学生ボランティアクラブの方とそうめん流しを行っていたが、コロナの影響で地域との交流が出来なくなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての発信・参加はコロナ感染症との関係から理解を得る手段はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を予定し、年度初めに年間計画をたて、会議ごとのテーマをもとに開催したり、郵送により周知しながら意見をもらっている。		コロナ禍で開催が出来ない時は、構成員の方にアンケートを実施して意見をもらっている。「訪問歯科があると良い。」と意見を頂き、実際に利用している方がいるので、予約して対応することになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の機会を活用し、ホームでの取り組み・活動報告を行いながら意見を求めている。		市の担当者に連絡して、コロナ感染について、対策や助言を頂き連携して取り組んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規の入居者の精神状態が落ち着くまでの間は止む無く施錠することがあった。玄関(中央)は自動ロックになっており、お互いのホームへの行き来はできている。		勉強会では、「不適切なケア」、「スピーチロック」などの動画を視聴し職員に感想文を提出してもらい、身体拘束の理解度を把握している。外部研修会に参加し、復命研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修や3ヶ月に1回、話し合いの機会を作っている。また、虐待芽チェックリストを活用し個人の振り返りの機会となるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用している方がおり、制度の活用については知っているが現状活用の必要な方は一人だけで、該当する方はほかにいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の面談・契約の際、担当した人が家族の方に説明している。入居後の疑問を話せるように促している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状の設置場所がホーム建物内にあるため、意見箱への投函がしにくい事もあり、これまで1回も投函されたことがない。今後、設置場所を変更し投函しやすいようにしていく。		コロナ禍で家族の面会が出来なくなった。面会が再開出来たら、コロナ前に行っていた、家族とお茶を飲みながら運営などに関する意見を聞き、運営に反映させたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人事務長の訪問があり、その都度相談できる。		定期的な業務会議では、職員から運営に関する意見が提案できる。病院受診に家族の付添いが出来ない時、職員も付添が出来ない時は、同法人の施設職員が付添い対応が行われて職員の意見が反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価チェックシートに記入してもらい、1人1人の勤務姿勢や目標に対する取り組みができていないか、評価の機会を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じ、介護安定センター主催や社会福祉関係の研修テーマに参加できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症による行動制限から地域との交流は難しく実施できていない。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得られている情報と照らし合わせながら関わりを持つことで安心して相談できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回カンファレンスの席で再度不安に感じていること、家族への思いを言葉に出来るようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活動作の中での困り事が何であるか、事前の情報から行動を確認し必要な工夫や準備についてスタッフ間で共有し提供できるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日課の中で参加できること、可能性を秘めていることに関し、参加できるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話での問い合わせや子機を利用した家族と本人が会話できる機会を作るようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でなかなか面会ができておらず、家族とも直接会って話ができない状況にある。	病院受診後自宅に行ったり、墓参りの対応を職員が行っている。馴染みの美容師さんにグループホームに来てもらい関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に参加して行う活動の中より、交流の機会をつくり、馴染みの関係性が築けるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援の要請があれば対応している。電話等の相談があれば受け入れる体制はできている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画更新時や関りの機会から思いを探り、生活の中に反映できるようにしている。		言葉で伝えることが出来ない利用者には、日頃の関わりからその時の状況で予測したり、話を傾聴し話し易い雰囲気を作り伝えたい事を導き出し把握に努めている。意向は経過記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りから生活歴を把握できるよう、スタッフに基本情報として文書作成し事前に回覧できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前後の生活状況、日中の過ごし方を通して支援の必要性を見極めながら環境を整えることで自立できる方法を工夫している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に対しては、来所の機会や電話による状況報告を行い家族からの意見や新たな情報については、スタッフで共有し計画に活かせるようにしている。		モニタリングは月1回、定期的見直しは、3か月～6か月で行っている。職員の意見は、朝の申し送りで行っている。期間の途中の見直しは、入退院後の身体の変化や看取り期に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の過ごし方を介護記録に残し、朝の申し送り等スタッフが集まる機会の中で意見交換を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナによる行動制限の中で多機能を取り入れ行うことが難しく実践できていない。			

宮崎県都城市 グループホーム「菜の花」(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として補聴器・メガネ使用の方の希望に添えるよう訪問による依頼を行い、生活への支障が緩和されるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合を除き、事前に受診の必要性を家族に伝え、報告・相談後に受診対応したり家族へ専門医の受診協力をお願いしている。	入居以前から専門医を受診している利用者は家族の希望もあり定期的に受診している。法人系列をかかりつけ医にする決まりはないが、入居時に緊急時の対応として迅速な対応が求められるような状況の際は、併設の医療機関を受診する旨をご説明し納得していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナース・当日の出勤スタッフに夜勤報告として前日の状況・健康面に関することも含め申し送りがあり、必要な受診・処置はできている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設に医療施設がある事で家族も安心して入居されている方もいる。医師への相談・助言も得られる環境にある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針について説明したうえでサインをもらっているが、終末期、急変の可能性については医師のムンテラ実施状態に応じ支援内容について文書を渡している。	看取り指針の説明は、医療連携ナースが説明している。家族に看取りの状態との話が医師から出た時点で家族に『看取り期に対するケア内容』として環境面や家族協力を頂く内容など文章化した物を交付している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携ナースを配置。オンコールによる対応にも応じており、必要な指示のもと対応できている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を計画。訓練後は専門の方より評価を頂き反省しながら次回に活かせるように取り組んでいる。	訓練内容としては、夜間と日中を想定し担当者が計画を行い消防訓練を実施しておりマニュアルの整備もある。今回非常用持ち出しカルテとして家族の連絡先や、内服情報など利用者様ごとに作成し持ち出し袋に準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	汚染している状況がある時は他者に気づかれないよう配慮することで自信の喪失につながらない様にしている。		利用者様の自室に入る際のドアのノック、排泄交換時は入り口のドアを閉める等の基本的なことに気をつけている。排便の有無を確認する際は、本人の側に近づきたずねるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを受容する気持ちで接し、いきながら、訴えに応じ安心して生活できるように思いを言葉にできる雰囲気作りを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内は自由に行動できるようにしながら、日課の中で実施する事にかんして意思に任せ参加してもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら選んで着用した衣類については似合っていることを伝え、身だしなみを意識することからさりげなく整えることができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の能力・参加意欲をみながら安全に出来る方法、達成感から次の意欲に繋がるように準備や声かけを行い、片付けや掃除等に参加してもらっている。		レクリエーション活動の時間に食レクの時間をつくり、クレープ作りやクッキー作り、その工程をそれぞれ行ってもらい目で見て、焼きあがる臭いを感じ、一緒に食べることをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回、栄養士による訪問があり、摂取状況・動作・体重の変動から助言をもらい対応できている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフの付き添いのもと口腔ケア(一人ずつ)を行っている。夜間帯、入れ歯を預かり消毒を行っている。			

宮崎県都城市 グループホーム「菜の花」(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりの方のみ、パットの交換介助で行っている。自立で排泄されていても、排泄の間隔が空いている場合は、排泄チェック表を活用しさり気ない声かけをしトイレ誘導を行っている。	利用者の座位保持が可能であれば、訴えではなく、個人ごとに記録している排泄間隔より予測しトイレに案内することで便座に座り排泄することができている。職員に対しては入職時のオリエンテーションとして基本的介護の資料を配布し、その中に排泄ケアが含まれている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、コップ一杯の白湯を飲用して頂き、牛乳を提供。ホール内歩行運動を行っている。排便が何日もない際は、排便コントロール表にて下剤服用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人に合った温度調整を行い、浴槽に入浴剤を入れ入浴を楽しんでもらっている。その気になれない方に関しては時間や日にちを変更している。	週3回を予定しながら直前のバイタルに問題が無ければ、入浴の声掛けを行い、入浴を断られた際は、無理に進めず、時間をずらしたり、曜日をずらしたり、時には対応するスタッフを変更しながら実施することもある。午後予定している場合も、利用者様の精神状態によっては午前中の方が受け入れが良い場合は、午前中に実施することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の為、テレビ持ち込み。室内で過ごされたり、夜は周りの音を気にせず安心して入眠されている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服スタッフで管理を行い、目的・副作用等を理解している。症状の変化は医療連携ナースにその都度報告を行っている。特に内服による副作用の可能性も視野に入れ、必要により報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き・食器洗い・洗濯物たたみ・洗濯物干しなど、個々に合った役割分担として出来る事を楽しみの一環としている。また、現状コロナ禍のなか行動制限もあり、園庭での気分転換等を行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の中での行動制限により、外出・外泊が現状できていない。花見ドライブ・短時間の外出等ホーム対応できる事に限られる。	気候によっては屋外に出ることは厳しいが、菜の花の咲く時期や比較的涼しい時期には、運動を兼ね、園庭に出ることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことは、現状ではないが本人の希望・必需品に関しては買い物の日に購入したり、ホームで注文したりして購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方より要望ある時は返信用のハガキに書いてもらい郵送している。電話は家族よりかかってきた時に本人に話してもらっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのテーブルにお花を飾り、季節を感じてもらっている。利用者が不快にならないようにトイレ・浴室は細目に掃除している。ラジオ・テレビ・CDをかけて楽しんでもらっている。	温度や湿度、採光などの環境に配慮し居心地の良い雰囲気を作っている。季節の花や作品を飾ったりと工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファに声かけで座っていただき、昔話を交えてお喋りをしたり歌を歌ったり、手踊りして楽しい時間を過ごしている。居室に戻られた際は声かけを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も使い慣れた入れ物、衣類等を置いて居心地よく過ごせるように家族にも対応して頂いている。	馴染みのある私物を持ち込んで利用者の生活感を大切にした居室環境に配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にあったお手伝いを声かけてして頂いている。「出来る事」「わかる事」を活かして自立した生き生きとした生活を送れるようにしている。			